

---

**学園戦争記 『Guard Castle』**

傀儡師の弦先に眠る破壊者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

学園戦争記 『Guard Castle』

### 【Nコード】

N8987P

### 【作者名】

傀儡師の弦先に眠る破壊者

### 【あらすじ】

#### 【衛兵の館】

一般教養から戦闘技術まで、幅広い教育方針を持つ隠れた学び舎。入学の条件はただ1つ、『危険を恐れない勇敢なる精神』のみ！ここに、危険を恐れない無謀なヤツ等による乱闘の日々が幕を開ける。

## 0 ・その日に平穩は去る（前書き）

：ご覧の小説の補足事項

- ・前書き枠 人物・世界観等のミニ紹介的な事します。
- ・後書き枠 番外編、またはポツネタの小ストーリー書きます。

：守ろう！注意事項！

- ・小説を読む時は、部屋を明るくして画面から3000mぐらい離れて見ましょう。
- ・健康の為、適度に休憩を取りながら読みましょう。
- ・めやすとして、500字ごとに8時間の小休止をおすすめします。
- ・投げないでください、壊れます。
- ・後ろを振り返らないで下さい、奴がいます。
- ・混ぜるな危険。

## 0・その日に平穩は去る

### ・三紅の煉獄都市災害

人の手による虐殺行為と自然的大災害が同時に重なり、大規模な被害を及ぼした事件。

1つの都市が【血と炎と黄昏の紅に染まった光景】から、5年に渡る現代でも歴史的な大事件として記憶されている。

生存者達の中には、施設から最小限の保護を受けて地道に働く者、町の再建に尽力した功績で高い地位を得た者、都市を逃れた後に消息を絶つた者と様々な人達がいた。

そして、以上のどれにも属さない者達・・・自力で生きるには過酷な状態にあった子供達に待っていたのは、『過酷を伴う生』と『安息を迎える死』のどちらかだった。

## 1・その日に歴史は動く(前書き)

【衛兵の館・ミニ情報Memo】

〈流れ者の師弟〉

とある目的で旅をしていた豪快な男(師)と細身の少年(弟子)  
人生経験上では師が上であるものの、頭の回転は弟子がダントツに  
上回る。

小賢しさにかけては師は弟子に敵わない為、何かと妥協することが  
多い。

口喧嘩は多いものの、師弟の仲はそこそこ良好らしい。

(今回の後書きストーリー・後日談)

## 1・その日に歴史は動く

「しっかしお前なあ・・・。まだまだ半人前な青二才のクセしやがって、どうやってそんだけ多くのガキ共を養おうってんだよ。」

「方法はどうかあれ、放って置いて見殺し・・・という訳にはいかないでござんしょう？お師匠殿。」

災害の騒ぎもひと段落ついた頃。

当時都市を訪れていた流れ者の師弟は、多くの子供達の目の前で口論を始めていた。

師と思われる人物は30代も半ばの体格がややゴツい男。喋り方とにかく豪快。

対する弟子は、十代も半ばいつてるかいながぐらいの細身の少年。喋り方がちよつと変。

口論の内容は、弟子が災害時に生き残った子供達を見境無く保護しまくり、更には施設へ送らずに自らの手で子供達を育てようと言いつ出した件について。

もちろん、現実の厳しさを実感してきた師匠の反論が基本的に説得性は高いのだが、弟子の諦めの悪さも筋金入りだった為に、かれこれ2時間程口論は続いていた。

「わあつたよ！ そんじゃ、お前の好きにしやがれ！ 悪いが俺はガキの世話まではしてらんねえからな！」

説得は無理だと諦めた師は、そう言い放って弟子の前から姿を消した。

「やれやれ、いつもながらに強情なお方で困りますね・・・お師匠は。」

困った顔をしながらも、口元を緩めて弟子は師匠の後ろ姿を見送った。

ちなみに口元が緩んだ理由は、弟子が懐から出した袋にあった。

「まったく、お師匠は本っ当に扱いやすいお方でございますねw 拙者に全財産預けてるのを見事に忘却したまま行ってしまわれた・・・」

『してやったり』と言わんばかりに小さくほくそ笑みながらも、弟子は自分の後ろに居る数多くの現実と向き合い、小さく唸る。

「さて、せっかく拝借させて頂いた財産は有効に使わせてもらおうとして・・・。」

果たして、これだけ多くの人数の未来を切り開くにはどうしたものか・・・と今更ながらに考え始めた。

## 1・その日に歴史は動く(後書き)

【後日談：弟子と子供達・・・その後】

「そういえば、子供達は今何人居るんでござんしょうか?」

・弟子はちよつと数えてみた。

「えーと・・・1、2、3・・・10、11、12・・・ざつと20人でござんすか。」

・子供Aは仲間を呼び寄せた!

・子供Uが現れた!

「あ、あれ? 何か増えたでござんすね!? で、ではもう1度人数の確認を・・・1、2、3・・・。」

・子供Cは仲間を呼び寄せた!

・子供Vが現れた!

「おおつと! また増えた(爆W) え、えーと・・・もう1度! 1、2、3・・・。」

・子供Kは仲間を呼び寄せた!

・子供Wが現れ・・・。

「ちよつ ちよつとタンマでござんす! 何か某RPGのモンスターみたく愉快に数が増えてきちゃってますが!？」

子供Dは仲間を・・・。

「ああっ！！ だからストップ、タイムでござんす！ 増えるなら  
せめて一度全員分数えきってから・・・」

こんな感じで人数は増えていったという。

## 2・年月は 子供達と共に5年の時を駆ける(前書き)

【衛兵の館・ミニ情報Memo】  
みっぺに  
三紅

物語の5年前に起きた事件を現す1つの分類。

事件を起こした張本人達。または、その血縁関係者や協力関係者等をひとまとめに現した呼び名であり、同時に不吉の象徴となっている。

(あとがき・話の腰が折れそうだったので没した1シーン)

## 2・年月は 子供達と共に5年の時を駆ける

「なあ、本当に今日出したんで間に合うのか？」

「大丈夫ですつて。ちゃんと確認はしてますから。」

「でも、入学願書を入学式当日に提出する学校なんて、どんだけ適当なんだよ。」

とある春の日の朝のこと。

この日は、【衛兵の館】と呼ばれる若干風変わりした学び舎の入学日。

今年の入学希望者の1人である少年『零音』は、ついさつき使用人の少年から受け取った入学願書に呆れ果てていた。

「とりあえず、複雑な手続きは僕の方でやっておきました。後は簡単なアンケート・・・みたいなモノなので、それだけ書いて現地で提出して下さい。」

「みたいなモノ・・・て所が微妙に引つかかるけど、とりあえず今のうちに書いといた方がいいよな。」

「そうですね。零音さんは後回しにした事って、恐ろしいぐらい忘却するの早いですからね。」

「・・・うつさいな。」

そう言つて、零音は使用人からアンケート・・・みたいなモノをぶん取った。

### 【入学手続き願書】

〈氏名と年齢の記載〉

本校は、個人的な事情を持つ生徒達の情報的保護の為、偽名の使用も認めております。

しかし、可能な限り本名記載のご協力をお願いします。

〈自称クラス〉

自分の能力や特技にあつた職名を指します。自称なので内容は自由ですが、功績を得た生徒はそのまま通り名となる場合もあります。最低限呼ばれても恥ずかしくないものにしましょう。

〈希望専攻クラス〉

腕を磨きたい学科を選びます。生徒の将来に大きく関わる選択肢です、慎重に選択して下さい。

〈生活費免除対象者〉

本校から依頼する簡易的な仕事を請け負う事を条件に、『ペット・使い魔・契約関係を持つ召喚者・世話係』等、生徒の生活を援助する者の生活費を1名のみ免除する制度です。

居住スペースに空きがある限りは複数名の居住も認めておりますが、2名以降からの生活費用は各個人の負担となります。

「・・・何だ？ このRPGみたいなアンケートは。」

「とは言っても、ぶっちゃけRPGみたいな世界設定ですからね。」

「設定とか言うなよ、設定とか!」

「まあ、一応書かないと話が進みませんので、さっさと書いて下さい。」

【入学願書】

氏名：ガントウレイオン岩頭零音

年齢：15

自称クラス：幻想魔道士

専攻クラス：魔道学科

生活費免除：対象者・御兔梨無音オトナシムオン

対象者詳細：種族『高位精霊』・クラス『守人』

「……これでいいか?」

「そうですね。思ったよりも、うさん臭い感じがして良いと思いますよ?」

「うさん臭くて悪かったな。」

文句を1つ返し、零音はアンケート用紙をカバンにしまって一足早い朝食をとる事にした。

## 2・年月は 子供達と共に5年の時を駆ける（後書き）

【没話ゝ多分、他の子供達もそう思ってるゝ】

零音の使用人にして子供達の世話役『御兔梨無音』の1日の始まりの様子。

「無音さん、朝食はできてますか？」

「あと少しです。先に顔でも洗って下さい。」

「御兔梨君？ 新聞屋さんが集金集めに来てるわよ？」

「あ、はい。今行きます！」

「御兔梨？ 昨日洗濯に出しといた服が戻って来てねーんだけど・・・」

「昨日は雨だったので、今日の夕方まで待って下さい。」

「むーちゃん・・・お洋服のボタンが取れちゃった。」

「あゝ、結構古くなってますねえ・・・後で付け直しておかないと。」

「無音ー！ー。近所のおばちゃんから野菜のお裾分けもらったぞー！ー。」

「本当ですか！ では、後でお礼に行きましょう。」

「……。」

「……あれ、どうしたんですか？零音さん。」

「いや、何かこうして普段のお前を見ると、ふと『お母さん』って呼びたくなる瞬間があるなあ……って思ったただだよ。」

「……そのセリフを年下の少年に真顔で言えるような神経は、一体どこで養ってきたんですか？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8987p/>

---

学園戦争記 『Guard Castle』

2011年10月5日10時08分発行